東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010 年 10 月 29 日

共に生きる徳

親愛なる兄弟姉妹の皆様。愛する預言者ムハンマドの有名なハディースで、「私は良い徳を完成させるために遣わされた」と命じられています。疑いもないことですが、良い徳の最も重要な要素は、品行方正であることです。今日のフトバでは、話すこと、座ること、歩くこと、そして飲み食いすることの徳について、学者たちの勧めていることをお伝えしたいと思います。

話す時には、たくさんしゃべりすぎることを避けるべきです。なぜなら話している友達がそれに苦痛を感じたり、不快に思ったりするからです。短く簡潔に話せば話すほど、より徳にかなったものとなります。話したことを繰り返すことを避けるべきです。特に冗談ぽく話す場合は、一度話したことをそれ以上話してはいけません。その楽しさが失われてしまうからです。他の人が話す時には、その人の言葉が終わる前に割り込んではいけません。

自分より目上の人々の話す場では、その優秀さや他者との違いを示すために質問をするべきではありません。どうしても必要な場合のみ質問をするべきです。3 人が一緒にいる時に二人だけで話すことは、残りの一人の心に不安を抱かせます。話す時には、聞き手が聞き返さなければならないほどの小声でもなく、聞き手を苦しめるほどの大声でもないようにするべきです。クルアーンでは「歩き振を穏やかにし、声を低くしなさい。」と語られています。醜い言葉、教えを否定する言葉、下品な言葉は厳格に避けるべきです。話す時には手や頭や目や眉でジェス

チャーをするべきではありません。「人々に、彼らが理解できる形で話しなさい」というハディースの要するところとして、相手のレベルに適った形で話す必要があります。言葉の間に「わかった？ほら注意して、話を聞いて」というような言葉を使わずに話すべきです。

道を歩く時には、あまりに速すぎても遅すぎてもいけません。中間を選択するべきです。歩く時に偉そうな態度をとろうとすることはこの上ない過ちです。

床に座る時には足を伸ばしてはいけません。ソファーに座る際には足を組むべきではありません。あくびしてしまいそうな時は口を手で覆うべきです。また口や鼻を清める時には必ずハンカチなどを用いるべきです。集まりにおいて座る際は、場をわきまえ、また自らの分をわきまえ、最も適当な場所に座らなければなりません。浴室では自分ひとりだったとしても、へそとひざの間をできるだけ覆うようにするべきです。

手は、食事の前と後に洗うことがより適切です。食事は「ビスミッラー」ということによって始めるべきです。もし一つの皿から食べるのであればそれを自分の前から、右手で食べるべきです。フォークやスプーンを使う時以外は、三本の指以外の指を使うことは適切とは見なされません。できるだけ一口を小さくするべきです。口に食べ物がある時にしゃべってはいけません。食卓から最初に立ち上がる人になるべきではなく、皆が食事を終えるのを待たなければなりません。食べ物に不足がある時にそれを口にするのも適切ではありません。

信頼なるムスリムの皆様。ご存知のようにイスラームは、生活のあらゆる側面を網羅し、それに関する命令や奨励を与える教えです。従って日常生活でも私たちの教えの命令、禁止事項から導き出される、共に生きる徳に敬意を払うようにしましょう。ムスリムは、親切さ、清潔さ、そして徳において模範となる人であるということを忘れてはいけないのです。